

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	北区
学 校 名	大阪市立中津小学校
学校長名	三辻 文子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に关心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中津学校では、第6学年 46名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率を全国と比較すると、国語-1.8%、算数+6%、理科+1.9%となり、国語科大阪府と同水準、算数科・理科は、全国平均を上回っている。

本校が日常的に教育活動で取り組んでいる朝の読書活動や読み聞かせ、また、昼のスマイルスタディタイムでの自主学習など、「言語力」を生かして、筋道を立てて思考や説明する力が身についている。

また、継続して習熟度別少人数授業や少人数授業に取り組んでいるため、個に応じたきめ細やかな指導の充実が、児童の学習意欲の高まりを感じられる結果となった。

教科に関する調査より、各教科において全国・大阪府の平均正答率からの分析により、以下の点について成果が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】問題1三(1)「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる。」、問題1三(2)「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。」において、全国・大阪府の平均正答率を大きく上回った。これは、本校が取り組んでいる「主体性」、「協働性」、「創造性」を重視した児童育成を図った学校生活や授業改善に取り組んだことにより、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決し、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する態度を養うことができたと考えられる。

【算数】問題2(4)「基本図形に分類することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る。」問題3(3)「数直線上で1の目盛りに着目し分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる。」では、全国・大阪府の平均正答率を大きく上回った。これは、習熟度別少人数授業に取り組み、個に応じたきめ細やかな指導の成果の現れである。

【理科】問題4(2)「水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる。」問題4(1)水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現できるかどうかをみる。」では、全国・大阪府の平均正答率を大きく上回った。これは、中学年より、専科指導により『問題→予想→実践→結果→考察』という探求のプロセスの体験や主体的に問題に取り組む態度を育成するための指導の成果の現れである。

質問調査より

(5)「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問項目において、肯定的な回答が全国・大阪府の平均率を上回る結果となった。また、(6)「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問項目においては、肯定的な回答が90%の結果であった。さらに、(14)「友達関係に満足していますか。」においても肯定的な回答の割合が全国・大阪府を上回った。これは、大阪市取組施策の「ブロック化による学校支援事業」や「区教育活動支援事業」での学びサポーターの人的支援も活用し、すべての教職員が子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導を積み重ね、子どもの自己肯定感を高めることで何事にも前向きに取り組み、最後までやり抜く姿勢を育ててきた結果である。

これらの結果から、子どもたちがより良い学校生活を送り、良好な人間関係を構築するための指導・支援の成果である。

今後の取組(アクションプラン)

- 今後も子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導を積み重ねることで、子どもの自己肯定感を高め、何事にも前向きに取り組み、最後までやり抜く姿勢を育てていく。また、学校規律の指導をさらに進める。
- ICT支援員の学校訪問を活用して、ICT機器環境の充実や主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学習効果を高める活用方法についての実践研修を計画的に推進する。
- 「主体性」、「協働性」、「創造性」を重視した児童育成を図った学校生活や授業改善に取り組むと共に、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりする機会を多く設定する。

【 全体の概要 】

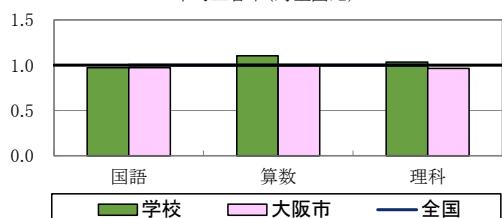
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	65	64	59
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

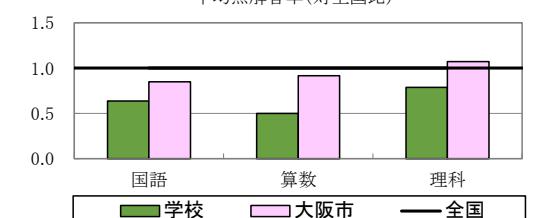
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	2.1	1.8	2.2
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



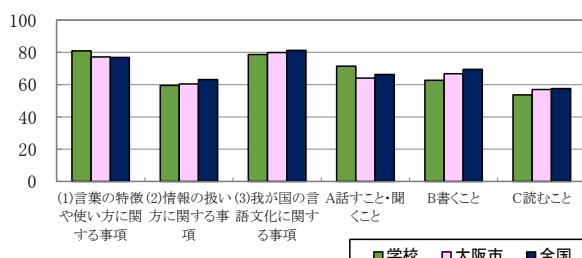
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	81.0	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	59.5	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	78.6	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	71.4	64.0	66.3
B 書くこと	3	62.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	53.6	56.9	57.5

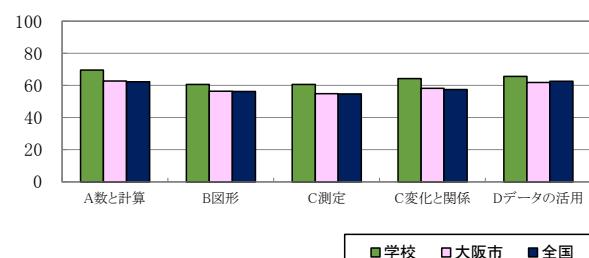
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	69.6	62.7	62.3
B 図形	4	60.7	56.4	56.2
C 測定	2	60.7	54.9	54.8
C 変化と関係	3	64.3	58.2	57.5
D データの活用	5	65.7	61.9	62.6

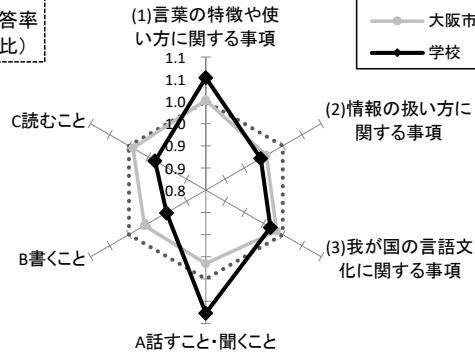
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



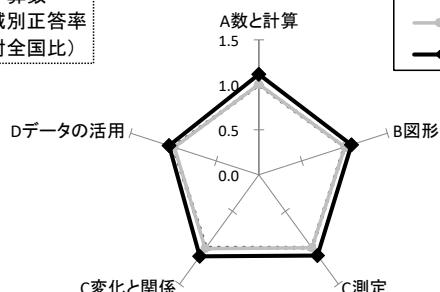
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

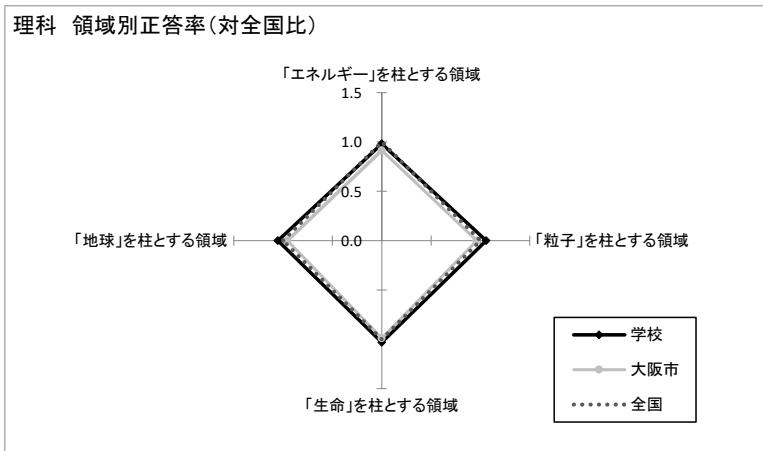
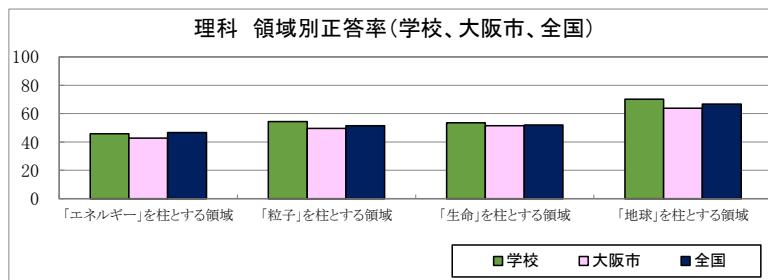


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	45.8	42.7	46.7
	6	54.4	49.5	51.4
B 区分 「粒子」を 柱とする領域	4	53.6	51.4	52.0
	6	70.2	63.8	66.7



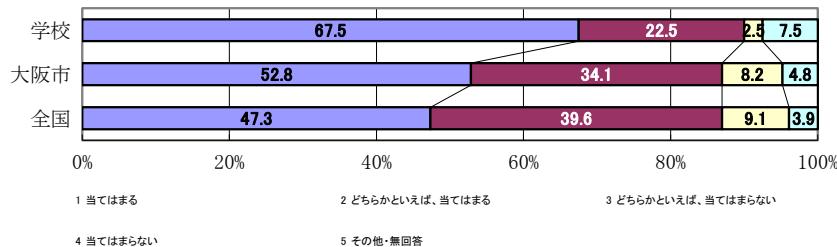
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

5

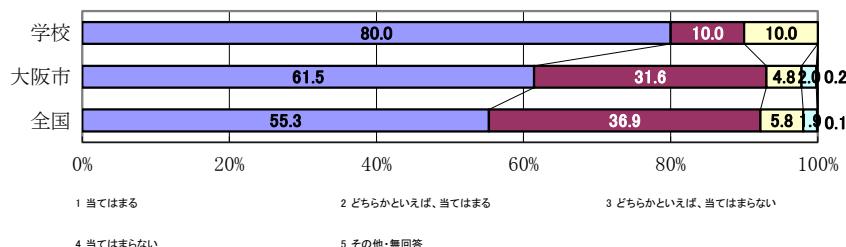
自分には、よいところがあると思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

6

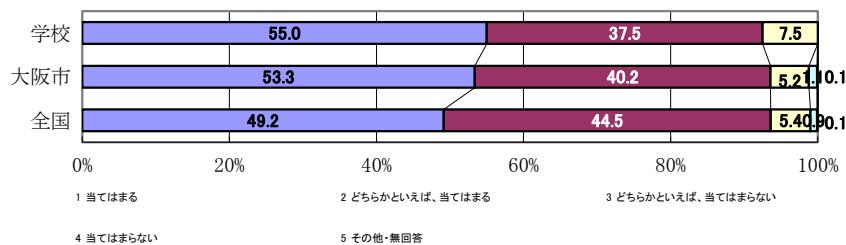
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

8

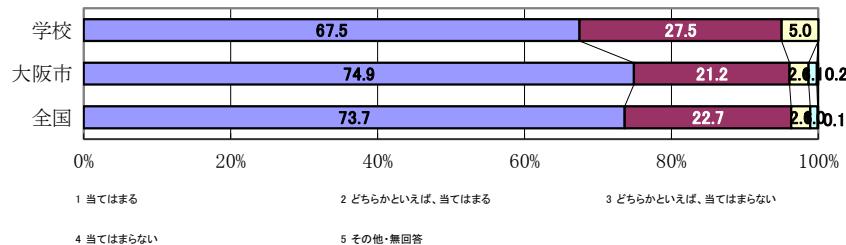
人が困っているときは、進んで助けていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

11

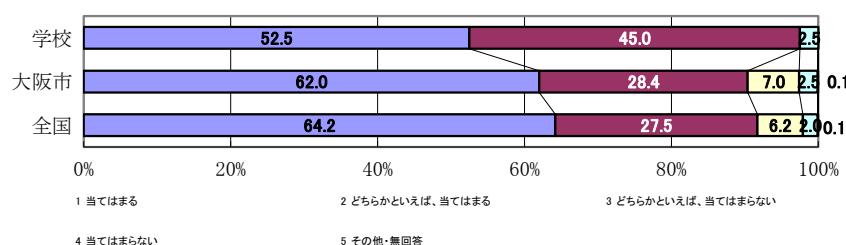
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

14

友達関係に満足していますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 その他・無回答

学校質問より

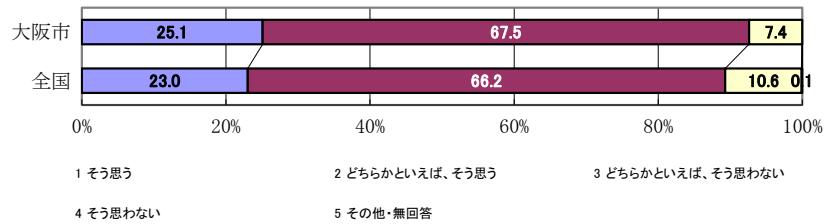
■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

質問番号
質問事項

27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

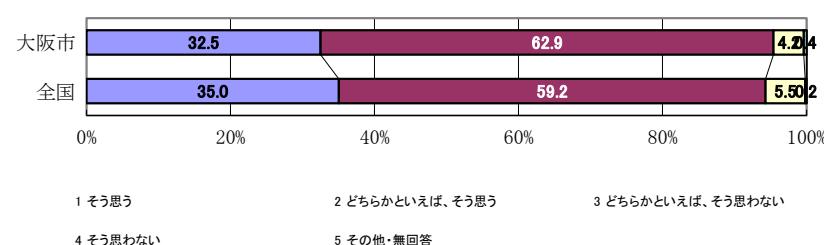
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか

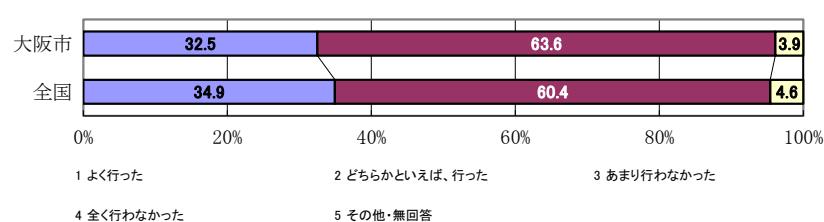
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

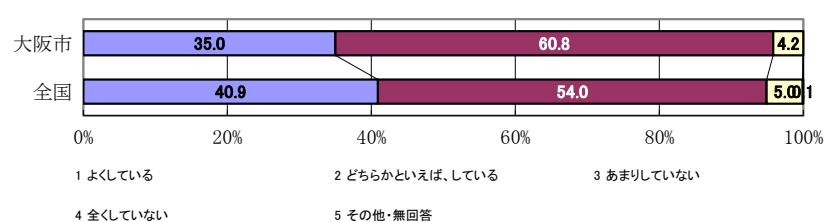
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択

